

床暖房について

床暖房対応の床材

フラットコイヤー タイル	P.27
ココセレクト ロール・タイル	P.29
マヤヘンプ ロール・タイル	P.30
マギーサイザル ロール・タイル	P.31
フラットサイザル ロール・タイル	P.32
ウールサイザル ロール	P.33
藤ピタタイルDX	P.34
竹タイルECO+ エコプラス	P.35

床暖房使用時のポイント | Point

- 床暖房システムに通電または通湯を開始してから床面が暖かく感じられるまでに、通常1時間程度必要とします。
- 床表面温度は、30℃前後が快適です。
- 床暖房使用時にはじゅうたん・カーペットなどを敷かないでください。
高温になり床材が変色する場合があります。

設計・施工時のお願い

- 床暖房機器については、各メーカーにお問い合わせください。
- 床暖房システムを設計する場合は、床の表面温度が30℃以上にならないようにお願いします。
- 床下の乾燥および床暖房機器表面の断熱には充分ご配慮ください。
断熱効果が少ないと床表面が暖かくなりません。
- 床暖房システムに使用する合板は、タイプ1のものをご使用ください。
12mm厚の場合、型枠用合板(コンパネ)が実用的です。
- 接着剤は耐熱性のものをご使用ください。
耐熱性接着剤としては、USタック(US-WPN)をおすすめします。(但し、藤・竹ロール床材は弾性接着)
- RC造りの建築の場合、モルタルが充分乾燥してから施工してください。
モルタルの含水率は13%以下で、仕上げモルタルの打設後1ヵ月以上が目安です。



ご注意いただきたいこと

床暖房設置所での施工について

- 現場に床材を一日ほど仮敷きしてください。
- 床暖房のスイッチを切り床面の温度が室温と同じになってから施工を開始してください。但し、冬季5℃以下の場合、接着剤の反応がおそくなりますので、暖房のスイッチを入れ床面を20℃程度に調整の上、施工することも効果的です。
- 全面接着施工されることをおすすめします。
(通常は剛性接着、但し藤・竹ロール床材は弾性接着)
- 床暖メーカーと打合わせの上、施工方法を決定してください。
※施工粘着剤付タイルは床暖房には使用できません。